

## 宮入興一さんを偲ぶ

25日に研究仲間の宮入興一さんが亡くなったという。まだ信じられない。今年8月に『諫早湾干拓事業の公共性を問う』を出版されたばかりで、これからも元気にご活躍されると思っていたので、私にとって衝撃である。

ご著者のお礼に、8月23日に次のような手紙を送った。「公共事業の公共性が問われる諫早湾干拓事業について、事業の本質と問題点が鋭く分析されています。…宮入さんらしい緻密な実証研究の成果であり、公共事業分析としても示唆に富むものです。長年にわたる調査研究が一冊の著作として結実したと思います。……」

宮入さんとは長い付き合いである。1971年4月から大阪市大近くで大学院「浪人」生活をしていた時に出会った。先のご著書に「略歴」が詳しく書かれているが、1964年に三菱銀行勤務とある。宮入さんは私より6歳年上で、銀行勤務をされてから大学院をめざした。同じく大阪市大の大学院をめざした私と在日コリアンの受験生3人で英語とドイツ語などの「受験勉強」を大学近くで行った。忘れられない思い出だ。

1973年に宮入さんは経済学研究科、私は経営学研究科に入学して、修士から博士課程へと進んだ。1979年に、宮入さんは長崎大商科短期大学部、私は名古屋市立女子短大に就職した。宮入さんは、長崎の豪雨災害や雲仙・普賢岳火山災害、東日本大震災などで災害研究の第一人者として活躍した。それと諫早湾干拓事業などの公共事業研究でも、緻密な調査研究により注目された。

宮入さんは2001年、長崎大経済学部教授から愛知大経済学部教授に代わった。これには私もすこし関係している。愛知大の知り合いが、財政学研究者を探していて、宮入さんを推薦して、とんとん拍子に人事が決まった。名古屋の自宅で宮入さんを囲んで、お祝いしたことも忘れられない。愛知大では経済学研究科長、大学院長などを務められ、東三河くらしと自治研究所代表なども歴任された。東海自治体問題研究所理事会で、一緒にしたこともある。

宮入さんは年上の「兄貴」のような存在であるとともに、大学院浪人から大学院入学、そして就職へと同じ時期に同じ道を歩んできた研究仲間である。まさか年末に亡くなるとは思ってもかけないことで、これを書いていても目頭があつくなる。宮入さんから学び、公共事業研究をすすめていきたい。宮入さん、長い間、ありがとうございました。

(2023年12月28日)

